

記念誌の刊行にあたって

図書館長 内田 慶市

このたび「関西大学図書館創設100周年記念誌」を上梓するのはこびとなりました。図書館は、平成7（1995）年の「関西大学図書館フォーラム」の創刊の際に、80年の歴史をふり返り年史として記しています。小誌はその後の20年の図書館の歩みを館史にとどめるものです。

明治19（1886）年に関西大学の前身・関西法律学校が大阪西区の願宗寺で開校しました。その後学舎は興正寺に移り、図書室が置かれたのが、関西大学図書館の始まりです。大正3（1914）年に、福島学舎に独立した図書館が創設され、2014年を以て100年の歳月を閲することとなりました。

大正3年当時の図書館は、大阪区裁判所の土蔵を改造した20坪ほどの2階建て洋風館でした。現在は昭和59（1984）年に開設した、総面積18,500㎡、地上3階地下2階の規模を誇る総合図書館を中心に、高槻キャンパス図書館、ミューズ大学図書館および堺キャンパス図書館を分館とした4館体制を敷き、図書220万冊、雑誌約24,000タイトル、電子ジャーナル約20,000タイトル、他各媒体資料多数を所蔵する、日本の私立大学有数の大学図書館へと成長を遂げています。

小誌が記すところの20年は、技術変化の最も激しい時代であったことは論を俟ちません。米国のライフ誌は「過去1000年におけるもっとも重要な出来事と人物」として活版印刷技術の発明者ヨハネス・グーテンベルクによる聖書印刷を第一位に選定しましたが、コンピュータとインターネットに代表されるデジタル化はグーテンベルクによる活版印刷技術の発明以来の情報革命を巻き起こしたと言われています。ネットワークの発展、電子情報の爆発的増加は、「電子図書館」という言葉に象徴されるように図書館を大きく変え、今も弛まぬ技術革新の進展は図書館に新たな課題をもたらしています。ラーニングコモンズ・デジタルアーカイブズといった言葉は図書館に携わる人々の間で、すでに人口に膾炙していますが、本学図書館でのそれらの取組みは将来に向かって一歩前進したところであると言えます。この時機に図書館が果たしてきた役割を再現し確認しておくことは、その将来を考える上で、必要不可欠な作業です。

本書が、本学図書館の過去をふりかえり、将来のあり方を考える材料となることを期待します。

図書館創設 100 周年によせて

学長 楠見晴重

本学図書館は、大正 3（1914）年 7 月、福島学舎に、小規模ながら本学初の独立図書館として竣工し、図書館として業務を開始し、今年、創設 100 周年の佳節を迎えました。

現在の関西大学図書館は、昭和 60（1985）年、千里山キャンパスに開館した総合図書館を本館として、平成 6（1994）年に開設した高槻キャンパス図書館、2010 プロジェクト事業の一環として、平成 22（2010）年に開設したミューズ大学図書館および堺キャンパス図書館を分館とした 4 館体制で運営されています。

総合図書館の開館に併せて、現在の関西大学蔵書検索システムが導入され、かつてのカード目録で図書を探す時代から、インターネットを利用して、自宅やスマートフォンからでも蔵書検索できる時代へと変遷しました。また、学術情報は、電子ジャーナルやデータベースの進展に伴い、従来の紙媒体を中心にした図書資料からインターネットを活用した電子資料へ急激に変化しつつあります。

これからの大学図書館は、学術情報サービスのさらなる高度化を図り、利用者のニーズに応じていくことにより教育・研究の支援機能を発揮し、情報社会に対応した学術情報サービスを展開していくことが求められています。

本学は、平成 28（2016）年に、創立 130 周年を迎えますが、「図書館創設 100 周年」及び「博物館開設 20 周年」との連携によるプレ企画として展示会や記念行事を開催いたします。

図書館創設 100 周年、そして、来るべき関西大学創立 130 周年を新しい歴史の幕開きととらえ、図書館が学術情報の収集・発信の中核として、これまで受け継がれてきた「知」と「精神」を継承するとともに、学術情報サービスの一層の充実に寄与し発展し続けることを期待いたします。

記念誌の編集について

本誌の編集は次のような方針で行ないました。

- 本誌の構成は、「第1部 この20年を振り返って」、「第2部 図書館に想う」、「第3部 図書館の文庫・コレクション」及び「第4部 資料編」の4部としました。
- 「第1部 この20年を振り返って」の主な記述の範囲は、高槻キャンパスに高槻図書室を設置した平成6（1994）年から平成26（2014）年7月までの約20年間としました。また、各時代のエポックメイキングな出来事をチャプターとしてまとめています。

ただし、この20年の間に、アウトソーシングの拡大、図書館組織の改編、事務職員数の減少等もあり、図書館にとって大きな変革の時代でもありました。そのため、掲載した原稿の一部については、忠実に当時の状況や経緯を説明できていない場合がありますが、執筆者それぞれが、懸命に当時の資料や記録にあたって作成したものとご理解ください。

- 「第1部」のチャプターの区切りとして「図書館コラム」を挿入しました。これは、本学図書館にまつわるエピソードやこぼれ話、図書館職員それぞれの思い出等を執筆したものです。
- 「第2部 図書館に想う」では、図書館に縁の深い方々にご寄稿いただきました回想やエピソードを収載しました。
- 「第3部 図書館の文庫・コレクション」では、関西大学図書館の旧機関誌にあたる『籍苑』第20号に本図書館の個人文庫を紹介しておりますが、それ以降に設けられた新たな個人文庫及び特別コレクションを紹介しております。
- 「第4部 資料編」では、第1部及び第2部を補完するために、関連する資料及びデータを収録しました。
- 「第1部 この20年を振り返って」及び「図書館コラム」は、平成26（2014）年現在、図書館事務室に勤務する専任事務職員の分担執筆という形をとったため、文体の相違や言葉の揺れ等がありますが、執筆者の意図を尊重し、調整は最小限にとどめました。

